

緑のるべ

平成23年6月

茨城県県南農林事務所
稲敷地域農業改良普及センター

稲敷市江戸崎甲541

TEL 029 (892) 2934

FAX 029 (892) 6684

E-mail f-inashiki@agri.pref.ibaraki.jp

稲敷市における水田農業復興に向けた取り組み



液状化した水田



地盤沈下した農業用水機場



液状化水田の土壌調査



田植え状況の調査

三月一日に発生した東日本大震災により、稲敷管内では、水田や水利施設で大きな被害が発生しました。その中でも、稲敷市では、水田の液状化や農業用水機場の損壊により、五七〇㍏もの作付け困難な水田が発生しました。

そこで、稲敷市は水田農業の復興に向けて、三月一八日に「稲敷市水田農業復興対策検討チーム」を立ち上げました。チーム員には、稲敷市農政課、JA稲敷、土地改良区、農政事務所、県南農林事務所、普及センター等の関係機関が参画しています。これまでに三回の会議を開催し、農地の被害や農業用水の状況等の情報共有や水稲の遅植え対策、転作作物の推進等について検討してきました。さらに四月には、下部組織として実務を担う「農地等復旧支援ワーキングチーム」、「栽培技術支援ワーキングチーム」を併せて設立し、アドバイザーとして、農業総合センターや（独）農業・食品産業技術総合研究機構 作物研究所の支援協力も得ています。

稲敷市では、このような支援体制が整い、農地復旧や液状化水田での水稲栽培や転作作物の栽培技術支援について、チーム一丸となって対応しています。

水稻の遅植え対策 ～六月以降の圃場管理～

稲敷地域では、水利施設の復旧作業によって、多くの地域で田植えが遅れました。田植えが遅れるほど、出穂までの日数は短くなり、生育量の確保が難しくなります。また、五月下旬までに田植えができた場合でも、5%程度減収する傾向があります。

五月半ば以降に田植えをする場合、圃場管理で重要なポイントとなるのは、茎数の確保、適切な施肥、病害虫防除です。田植えまでの管理では、①植え付け株数をやや密植（坪当たり六〇株以上）にすること、②倒伏防止と適正追肥のために基肥窒素量を一〇%程度減肥すること（一発肥料の場合はさらに減肥）がポイントでした。

ここでは、六月以降の主な圃場管理である「中干し」、「穂肥」、「病害虫防除」について解説します。

①中干し
茎数確保が困難なため、分げつ抑制のための中干しは必要ありません。ただし、倒伏防止の観点から、幼穂形成期前までに田面は固めておきましょう。幼穂形成期以降の水管理は、通常の管理と同様に、

間断かんがいをを行います。特に、登熟期の間断かんがいは、三〜四日間隔で入水と自然落水を繰り返す綿密な方法で行い、乳白粒、胴割粒、くさび米等の発生を抑制しましょう。

②穂肥
通常の管理でも、基肥窒素量が多すぎると、草丈が伸びすぎ、葉色も落ちないことから、穂肥ができません。または適正量を追肥できないということが起こります。適正な窒素量を施肥できないと、粒張りが悪くなり、さらに乳白粒、背白粒等の白未熟粒の発生も多くなってしまいます。

遅い田植えの場合でも、考え方は同じです。しっかりと通常の穂肥量を施肥することで、できるだけ登熟歩合を向上させて、収量を確保しましょう。一発肥料を用いた場合は、基肥で施肥量を減らした分、穂肥時期に葉色に応じて不足分を補います。

③病害虫防除
病害虫の種類では、いもち病（特に穂いもち）やイネネットムシの多発生が懸念されます。このような病害虫の多発生は、減収につながるため、適期防除に努めましょう。

いなしき味まつりを開催

一月二七日、稲敷地域農村女性グループネットワークと普及センターの共催で「第四回いなしき味まつり」を開催しました。

地元食材を使った料理コンクールと、江戸崎消防署による救急救命に関する講習会を行いました。

コンクールの今年のテーマは、役員会において「ハクサイ（惣菜）」と「ダイズ（菓子）」に決まりました。当日は七グループ三〇名が参加し、ハクサイの部で二点、ダイズの部で二点の計二点の出品がありました。



料理コンクールの様子

参加者が料理を試食して人気投票を行うとともに、審査員により食味

や外観、普及性などの項目について審査が行われました。その際、出品者からレシピ考案の経緯や想いなどを説明しました。



写真
上：焼売風はくさい包み
左：黒豆のムース



審査の結果、ハクサイ部門では黒沢文江さんの「焼売風はくさい包み」が、ダイズ部門では関口邦子さんの「黒豆のムース」がそれぞれ最優秀賞に選ばれました。

これまでの入賞作品の中には学校給食や市の公民館講座で取り上げられているものもあり、地域に根付いたイベントとなりつつあります。

J A 竜ヶ崎市花き園芸部会が
銘柄産地に!



認定式の後記念撮影

平成二二年に、J A 竜ヶ崎市花き園芸部会のコギクが茨城県銘柄産地に認定されました。

結成されて九年目の若い部会ですが、品目転換などで会員数は順調に伸び、現在は牛久市・龍ヶ崎市の二七名で構成されています。

コギクの栽培面積は九ヘクタール、年間出荷本数は二四〇万本、販売額九千万円は県内第四位です。

六〜一〇月咲きが主な出荷期ですが、パイプハウスの導入により、五月、十一月収穫の作型で出荷期間の拡大を図っています。

露地電照栽培には、七名が取り組み、需要期出荷率向上を図っています。今後も、部会一丸となって市場に信頼される産地を目指していきます。

ネギの病害虫防除対策

ネギは栽培方法や品種を選ぶことなどによって周年生産が可能ですが、しかし、時期によっては病害虫の発生しやすい環境となるため、品質の良いネギを生産するためには適切な防除が必要です。

ここでは、ネギに発生しやすい主な病害虫の特徴と防除対策を紹介いたします。

一 病害

(一) べと病

①特徴 春や秋に低温で曇雨天が続くと、葉に灰色く黒っぽいカビの病斑を生じます。



図1 べと病

②防除対策

発生前や発生初期から

予防を主体に定期的に薬剤散布します。

(二) 黒斑病

①特徴 発生条件はべと病と同様で、だ円形の病斑を生じます。

②防除対策 多湿条件で発生するので圃場排水を良くし、べと病同様に予防を主体に防除します。



図2 黒斑病

(三) 白絹病

①特徴 高温多湿で発病しやすく、実際に白いカビと粒状の菌核を生じます。

②防除対策 有機物で繁殖するので、未熟有機物などは施用しないよう注意が必要です。発生初期に薬剤防除します。



図3 白絹病

①特徴

高温多湿で発病しやすく、

(四) 軟腐病

軟白部全体が軟化腐敗して悪臭を放ちます。

②防除対策 未熟有機物を施用すると発生しやすいので注意が必要です。また、大雨で畑が浸水すると発生しやすくなります。

(五) 黒腐菌核病

①特徴 晩秋から春に発生し、軟化腐敗した株を引き抜くと黒色の菌核が見られます。

②防除対策 土壌病害のため、連作を避けるか土壌消毒が必要です。

二 害虫

(一) ネギアザミウマ

①特徴 葉をカスリ状に食害し、高温乾燥で被害が大きくなります。

②防除対策 薬剤抵抗性が発達しやすいため、系統の異なる薬剤をローテーションで使います。

(二) タネバエ

①特徴 しおれた株を引き抜くと根元付近に白いうじ虫が五〜十匹くらいいます。春や秋に発生が多く、夏季には少なくなります。

②防除対策 有機物の臭いに誘引されて成虫が産卵するので、未熟有機物などは施用しないよう注意が必要です。

農薬など詳細につきましては、普及センターまでご相談ください。

稲敷地域青年農業士会設立



会長は藤田文男さん(牛久市)、副会長は飯塚稔さん(稲敷市)、中嶋研一さん(美浦村)、内藤貴通さん(河内町)となりました。

一月三十一日、稲敷地域青年農業士会設立総会を開催しました。

来賓の県南農林事務所 山根次長、農業経営士協会稲敷分会 根本分会長、稲敷地域女性農業士会 新木前会長より、青年農業士の皆さんへのエールを込めたごあいさつをいただきました。

初代会長となった牛久市の藤田文男さんからは、「まずは青年農業士のみなさんと交流し、やがて地域農業に貢献できるような活動をしていきたい。農業経営士や女性農業士の先輩方、関係する皆さんのご協力をお願いしたい。」と力強いあいさつがありました。

農業学園のご案内



先輩農家からの講演

普及センターでは農業を始めて間もない方(概ね五年目まで)を対象に、農業学園を開催しています。

これからの農業経営に役立つ知識の習得と同世代の仲間づくりを目的として、様々な勉強会や先進農家の見学などを行います。昨年度より二年間のカリキュラムを組んで講座を開催しており、昨年度は病害虫講座や直売所研修などを行いました。今年度は下記のような内容で、年間八回程度の講座を行う予定です。今年度からの参加も大歓迎ですので、興味のある方はぜひご参加ください。

平成二三年度講座内容

- 水稲講座
- レンコン講座
- 野菜講座
- 土づくり講座
- 経営講座
- アグリフォーラム
- 青年農業者セミナー



病害虫診断の様子

詳しい研修内容について知りたい方や参加申込したい方は、お気軽に普及センターまでお問い合わせ下さい。

普及センター新体制

センター長 増尾 重治

【経営課】

- 課長 水野 仁志(野菜経営)
- 主査 寺内 幸男(野菜経営)
- 主任 服部 裕美(庶務)
- 副主査 野中 潤一(経営流通)
- 技師 森川 侑太
- 臨時職員 海老原 あけみ

【地域普及第一課】

- 課長 白井 謙一(野菜経営)
- 専門員 田中 有子(野菜経営)
- 主任 袖山 悟志(作物経営)
- 技師 金 榮厚
- 技師 橘 恵子(作物経営)
- 技師 小向 佑奈

【地域普及第二課】

- 課長 前島 道子(農産物加工)
 - 専門員 荒井 浩明(野菜経営)
 - 主任 毛利 直子(花き経営)
 - 技師 小口耕太郎(作物経営)
 - 技師 白石 奈穂(果樹経営)
- どうぞよろしくお願ひ致します。

